

四十一 感激かばん・感激寮

私の旗印の言葉が「感激」という言葉であるため、私の運動を感激宗とか、感激運動などといわれたものでした。私の持っていたカバンを感激カバンなどといい、かつて福井商業（旧制）に行った時、速記部顧問の永井弘平先生に連れられて、駅に迎えに来ていた生徒達が、この感激カバンを「おれに持たせろ、おれに持たせろ」といって、学校までリレーで持って行ってくれたことがありました。暑さ寒さをいとわず、全国行かないところはなないように夢中になって運動を続けたものでした。

「世界一の速記国日本の建設！」という呼び掛けに共鳴した各地の一般の人々や学生たちは、誠に熱心なものでした。

私が高松商業（旧制）に行く時でした。岡山から宇野に出て宇野から船で高松に行くつもりで宇野に行ったのでした。そうするとそこに学校で速記指導をしておられた植田 裕先生に連れられて、速記部の〇Bの紅野省一さんを加え、大勢の速記部員たちが迎えに来ていたのです。びっくりしました。わざわざ宇野まで迎えに来ていたのです。また高松といえば、川田秀幸さんがおられ、終戦後、米のないとき植田先生と相談して米を送ってもらったことがあつて忘れられません。